

編集後記

今年の梅雨はひどく涼しく、寒いような日が続いたが、本号がお手もとに届くころにはいよいよ本格的な夏の暑さになっていよう。8号と9号は2号連続で久しぶりに「高次脳機能障害」の特集をおこなった。

筆者の「特集によせて」でも述べたように高次脳機能障害というテーマは、かつての失語・失行・失認のみという時代から、記憶・注意・意識などの障害、また痴呆などへと非常にひろがってきている。今回は失語症関係のものは別の機会にゆずり割愛したが、その他はできるだけ広い範囲のものをとりあげた。また今回は新しい試みとして、企画(依頼)原稿だけでなく、このテーマについての症例報告を公募したが、幸いに多数の投稿を得ることができ、リハビリテーション界におけるこの問題への関心の深さがうかがわれた。また筆者も強調したが「障害を中心にし

たリハビリテーション医学的な見方」がかなりに浸透して来ているように見られるのも喜ばしいことである。水野氏の「歩行失行」、三島氏の「構成失行」、福井氏の「半側無視」はそれぞれ力作であり、教えられることの多い論文である。それに続く4つの症例報告も半側失認と視覚失認についての各2例で、興味深いものである。

研究と報告では3号にわたり連載された二木氏の力作「脳卒中患者の障害の構造の研究」が完結した。障害学的な研究の模範ともいべきもので、長文ではあるが、ぜひ3篇の通読をおすすめしたい。

坂田氏の巻頭言も含蓄の深いもので考えさせられる。

その他講座、紹介、ひと、文献抄録など多彩な内容をお届けできることは幸せである。

(上田 敏)

次号予告(第11巻 第9号)

特集 高次脳機能障害(その2)

失読と失書:日本語の文字体系との

関連を中心に……………京都第一赤十字病院 大東 祥孝

Motor impersistence ……………群大・リハ研 平井 俊策・他

Disconnection syndrome……………東京都神経研 杉下 守弘

<症例報告>

右中大脳動脈灌流域硬塞により Motor impersistence

を呈した片麻痺患者の1症例……………星ヶ丘厚生年金病院 小澤 和夫・他

記憶障害患者の復職可能性について……………東大・リハ部 原 寛美・他

前頭葉性無動無言症のリハビリテーション

の1例……………京都府立医大・精神神経科 有馬 成紀・他

進行性痴呆の1症例に対する働きかけ

—5年間の記録から……………東京都・老研 綿森 淑子・他

巻頭言 在宅脳卒中患者の健康体操……………伊豆逋信病院 大田 仁史

研究と報告 重複障害(片麻痺+上肢切断)の3例……………九州労災 吉村 理・他

視空間失認の定量的評価法……………鹿大・霧島分院 田中 信行・他

脳卒中患者が自宅退院するための医学的・

社会的諸条件……………代々木病院 二木 立

症例報告 脳硬塞急性期に心筋障害を合併した症例の

リハビリテーション……………慶大・月が瀬リハセンター 里宇 明元・他

講座 CT(9) 脊椎椎体疾患のCT Scanによる

診断について……………自治医大 大井 淑雄

上肢の機能解剖(6) 上肢の機能評価……………東京都・老研 鎌倉 矩子

一頁講座 スプリント(9) 片麻痺のスプリント……………川崎医大 明石 謙

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加 倉 井 周 一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)